

# むきばんだ花だより

4月

2017. 4. 22

## ◎タラヨウ(多羅葉)、モチノキ科、モチノキ属

常緑高木、雌雄異株、本州以西九州、四国に分布し、関東にも植樹されている。葉は肉厚で20cmほどある長楕円形でその縁は、のこりの様にこまかいぎざぎざの鋸歯がある。○別名:ハガキ(葉書の木)、郵便局の木、モンツキシバ(紋付袋)、エカキンバ(絵描付袋)、ジカキンバ(字書付袋)。○**タラヨウの花言葉**:「伝える」○名前の由来:インドで写経に用いられていたヤシ科のタラジュ(多羅樹)という木に似ているため。葉書の語源とも言われますが、これは関係なく、本来、ハガキは端書であり、葉書は借字と云う事ようです。タラヨウの葉は現在の変形はがき(定形外郵便物)として十分使用に耐え切手を貼って葉書として使用されます。(会員の話、試に出したら無事配達されました。)タラヨウは郵便局のほか、神社や仏閣にも多く植栽されています。これは葉を火で焙じた時にでる黒い模様で吉兆を占った様です。別名のモンツキシバ、などは、まさにその様子を表しています。この時出る紋を「円紋」「死紋」といい、組織が破壊されたことで浮き出るようです。葉を傷つけた時にも、葉に含まれた成分が浮き出て空気に触れ化学反応することが原因のようです。タラヨウに書かれた字は残るので、神社では経文を書き写したり、吉兆を確かめる等重宝されて積極的に植樹が行われ、現在タラヨウが多く見られる場所は寺院となっています。★撮影日:2017,4,22, ★撮影場所:むきばんだ公園入口(坂の途中右側)



タラヨウ

## ◎ムラサキタンポポ(紫蒲公英)、センボンヤリの別名

「2016年、むきばんだ花だより9月号参照」花は春と秋に咲きます。春の花は「別名」のムラサキタンポポと云われるように白い花の裏側が紫色を帯びています。名前のセンボンヤリは秋の花で閉塞花が大名行列の千本槍を思わせます。

★撮影日:2017,4,22, ★撮影場所:むきばんだ公園入口



ムラサキタンポポ(センボンヤリ)の春の花

## ◎ムラサキタンポポ(紫蒲公英)、センボンヤリの別名

「2016年、むきばんだ花だより9月号参照」花は春と秋に咲きます。春の花は「別名」のムラサキタンポポと云われるように白い花の裏側が紫色を帯びています。名前のセンボンヤリは秋の花で閉塞花が大名行列の千本槍を思わせます。

★撮影日:2017,4,22, ★撮影場所:むきばんだ公園入口



アケビ



キランソウ

## ◎キランソウ(金瘡小草)シソ科、キランソウ属

多年草。○別名:ジゴクノカマノフタ(地獄の釜の蓋)、コウボウク(弘法草)、インシャダオン(医者倒し)。○名前の由来:草むらに密生して咲く様子を「金瘡(きんさん)という織物にみたてたという。○花言葉:あなたを待っています、追憶の日々、健康をあなたに。○キランソウは本州、四国、九州、朝鮮半島、中国に分布し、日本では普通にみられる野草です。冬期にも葉をつけ根出葉はロゼット状で、茎は地上で四方にはって伸び、全体に細毛があります。花は葉腋に数個付き、色は紫色、形は唇形、花冠の大きさは約1cmです。果実は卵球状の4分果、長さ約1.7mmで、隆起する網目状の模様があります。シソ科では珍しく、茎の断面が丸い。○開花期(早春~晩春)に全草を採取して水洗い湯に乾かしたものが生薬の「筋骨草(きんこつそう)」です。効能は、高血圧、鎮咳、去痰、解熱、健胃、下痢止め、等に効果があるとされていますが、民間薬的なものです。また、生の葉汁を火傷、切り傷、虫刺されや湿疹にも利用されました。最近になって関節症や骨粗鬆症への有効性があるといわれています。別名をジゴクノカマノフタとも言われ、「病気を治して地獄の釜に蓋をする」の意味説もあります。

★撮影日:2017,4,22, ★撮影場所:妻木山地区入口

## ◎ホラシノブ(洞忍)、ホンゴウシダ科、ホラシノブ属

名前の由来:洞窟の周りの崖地に生えることから。○別名、花言葉は不明。常緑性多年草で、様々な場所に見られ、形態の変化も多いが細かく分かれた枝に丸っこい葉が付くのが面白い。日本では、本州の東北南部以南、四国、九州、琉球諸島、小笠原諸島に広く分布している。

○ホラシノブ属には世界の熱帯から亜熱帯に十数種類あり、近似種にハマホラシノブ、ヒメホラシノブ、コビトホラシノブがある。他に「タチシバ(立忍)」もよく似ている。

★撮影日:2017,4,22, ★撮影場所:むきばんだ公園入口。



ホラシノブ



ムラサキケマン

## ◎ムラサキケマン(紫華鬘)ケシ科、キケマン属

越年草。有毒植物。○別名:ヤブケマン(藪華鬘)。○名前の由来:仏具のひとつ「華鬘(ケマン)」という装身具に似ていることからこの名になったと云われます。【ケマンとは元々、古代インドで「貴人に捧げられた、生花で作られた花輪」ですが、転じて、唐草や蓮華(れんげ)が透かし彫りされた、金属または革製の円盤状の装飾品で仏殿内部に飾ります。】○花言葉:喜び、助力、あなたの助けになる。日本全国に分布し、国外では中国が知られる。花期は4~6月で、赤紫色の長さ2cmでキケマン属に独特の筒状花を咲かせます。果実は豆の果実に似ています。○全草が有毒で誤食すれば嘔吐・呼吸麻痺・心臓麻痺などを惹き起こす。ウスパンロチョウの幼虫の食草であり、うこのためウスパンロチョウも有毒です。また植物体を傷つけた時にでる汁は悪臭がする個体もある。

○山菜の「シヤク(杓)」別名「ヤマニンジ」に葉がよく似ているので注意が必要です。

★撮影日:2017,4,22, ★撮影場所:むきばんだ公園入口



アカメガスワ

## ◎ウミズザクラ(上溝桜)、バラ科、サクラ属

○別名:ハハカ(古名)、カニワザクラ、コンゴウザクラ、アンニンゴ。○花言葉:純潔、心の美、純粋、持続する愛情、神秘なこころ、運命を開く、可憐、美の秘密。

○名前の由来:裏に溝を彫った鹿の肩甲骨を、ハハカ(ウミズザクラ)の木を燃やして焼いた時の割れ目で古い(太古・フトマニ)をした故事による。占(裏)溝桜の表記が正しいとも言われています。古事記では「...天の香具山の鹿の骨を抜き取って、同じく天の香具山のハハカの木で古いを…」とされており、大事件の時に行われた古いが太古で日本書紀ではアメノコヤネ命とフトマニ命の2神が太古(フトマニ)を司っています。花の形がよく似た「イヌザクラ(犬桜)」があります。

\*撮影日:2017,4,22, ★撮影場所:妻木山地区



ウミズザクラ



◎ヒメコウゾ(姫楮)、クワ科、コウゾ属。

落葉低木、雌雄同株。○別名:栲(タク)、楮樹(カジノカ)。○花言葉:過去の想い出。  
○名前の由来:この仲間(コウゾ、ヒメコウゾやカジノギ)は古事記や日本書紀にも現れています。その中に古名の「カソ」からコウゾやカジノギに転訛したと云う説があります。また、樹皮から神(カミ)の衣(イ)を織ったことから「カミノ」がコウゾに転訛したと云う説もあります。ただ、この3種は明確に区別されていなかった様です。古い時代から人の生活に蜜着した存在で、さまざまな名前と呼ばれていた様です。樹皮の繊維は強度なので古い時代には衣服や網等の材料にされていて古事記や日本書紀、あるいは万葉集にそういった記述があります。本州から沖縄、朝鮮半島、中国に分布。果実は小核果が球状に集まったもので初夏に赤く熟し、甘味があり生食でき、果実酒にもされます。繁殖は「根分け」によって行はれ、早春に植え付け、冬、2m位伸びた枝を切り、それを束ねて蒸気で蒸して、皮を剥く、この皮を乾燥させたものを黒皮と呼び、黒皮から表皮や古い繊維層を取り除いたものを白皮と云います、この白皮が和紙の原料となります。コウゾの繊維は、紙を作る植物繊維の中で最も長く、そのため強靱で、長く保存のきく和紙が作られ、障子紙や表具用紙、和傘紙などに適していたそうです。

★撮影日:2017,4,22, ★撮影場所:妻木山地区



ヒメコウゾ



ホトケナザ

◎ムサシアブミ(武蔵鏡)、サトイモ科、

テンナンショウ属。多年草。○別名:ユハツ(由跋)、古名は「カキツバナ(加岐都波奈)。

○花言葉:威厳。

○名前の由来:花(仏炎苞)の形が鏡に似ていて武蔵の国で作られた鏡が良質であった事から呼ばれる様になった。○分布は関東以西、四国、九州、沖縄に生育する。

★撮影日:2017,4,22, ★撮影場所:妻木山地区



ムサシアブミ



トチノキ



ニガキ

◎ニガキ(苦木)、ニガキ科、ニガキ属。落葉高木。

雌雄異株。○別名:クボク(苦木)。東アジアの温帯から熱帯に分布する。日本では全国に分布し、低地の林内に生育する。すべての部分に強い苦味がある木で名前の由来となりました。樹高は6~8mで、12m以上のものもあり、葉は互生し、奇数羽状複葉で、長さ15~25cmにもなる。小葉は7~13枚が対生し、先端は尖り、縁は鋭い鋸歯があります。花期は4~5月。葉腋から花序軸を出し、集散花序の小さい黄緑色の花を、雄花序には30~50個、雌花序には7~13個を付ける。果実は2~3個の分果となり、緑黒色に熟す。6~7月頃、枝を切り取り樹皮を剥ぎ、日干しで乾燥させた物を生薬の苦木(ニガキ、クボク)と云います。苦み成分や強い抗菌作用、殺虫作用があり、主に苦味健胃薬(普通、幹や枝の皮を取り除いた木部を刻むか、あるいは粉末にして苦味健胃剤として用います。)として用いられている。ただし、伝統的な漢方剤では使わないそうです。また、乾燥した木材を削ったもの、葉を乾燥させたものを煮沸して煎剤を作り、この煎汁(せんじゅう)を、殺虫剤とし農作物へ散布したり、家畜へ散布使用する。効果は農業より劣るが天然の殺虫成分のため、有機農業などで使用されます。心材は黄色味がかったおり、木目がはっきりしているので、細工小物などに使用されます。ただし、椀や食器等に使用すると苦味成分が出て使えず、臭いも少しあるので、狭い範囲で使用されています。

★撮影日:2017,4,22, ★撮影場所:妻木山地区の谷部



セロクタンボノ



シロハチバンボノ



カメムシの押し鏡頭?

★むきばんだを歩く会★

- 指導: 鷲見寛幸先生 (鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」